# 平成３１年度普及指導計画体系図

南加賀農林総合事務所

| 【基本課題】 | 【普及指導課題】 | 【主な普及指導事項】 | 【現状(H30) → 目標(H31)】 |
|---|---|---|---|
| 地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援 | 多様な担い手による地域農業の基盤強化と活性化<br>(H31～33) | 地域や営農条件に応じた経営力の強い経営体の育成<br>（経営改善に取り組む経営体の育成） | 園芸複合導入経営体数（累計）<br>61経営体→ 68経営体 |
| | | ・園芸複合化の推進（ブロッコリー、かぼちゃ、たまねぎ） | 取組メニュー提示経営体数 0 → 4経営体 |
| | | ・水稲作の低コスト化、省力化に向けた密苗、直播の導入推進 | 自ら現場改善に取り組む経営体数<br>0→ 2経営体 |
| | | ・生産効率改善に向けた現場改善手法の導入支援 | |
| | | 人･農地プランの再点検による農地集積推進 | |
| | | ・担い手のリタイアが懸念される集落の担い手確保 | 農地集積率 77% → 78% |
| | | ・人･農地プラン見直しによる実質化の推進 | 人・農地プランの見直し 0 → 4プラン |
| | | 地域農業を支える新たな農業人材の育成・支援 | 就農計画の所得目標達成率 100% → |
| | | ・個別指導カルテに基づく重点指導の実施（新規就農者） | |
| 消費者ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大 | ブランド化品目の産地育成と販売支援<br>(H28～31) | ルビーロマンの生産拡大と商品化率の向上 | |
| | | ・果粒肥大に応じた厳格な着果調整と若手生産者の技術向上による出荷量の拡大 | 出荷量 5,518房 → 7,300房 |
| | | ・新技術の実証（遮熱資材、生育抑制剤等）による大房の商品化率向上 | 商品化率 44% → 55% |
| | | エアリーフローラ産地の育成 | |
| | | ・密苗導入経営体と空きハウスを所有する施設園芸農家への作付推進 | 出荷量 43千本(H30産) → 72千本(H31産見込) → 110千本(H32産) |
| | | ・連作障害・ウイルス対策の徹底による商品化率向上 | 商品化率 38%(H30産) → 45%(H31産見込) → 55%(H32産) |
| | | 加賀しずくの生産拡大と規格品率の向上 | |
| | | ・苗木育成指導と集出荷・選果体制の整備支援による出荷量拡大の推進 | 出荷量 3.6ｔ → 9.0ｔ |
| | | ・栽培特性の周知と着果量の適正化による商品化率の向上 | 商品化率 83% → 85%以上 |
| | | ＧＩ取得を契機とした加賀丸いもの生産・出荷拡大 | |
| | | ・栽培適地ほ場マップ作成等による生産・出荷拡大 | 単収 1,168/10a→1,200kg/10a |
| | | ・省力化技術(高畝形成機、マルチ栽培等)の導入拡大による生産性向上 | |
| | | ひゃくまん穀の高品質・安定生産 | 単収 636kg/10a → 700kg/10a |
| | | ・新規栽培者への重点指導等による栽培方法に応じた適正な栽培管理への誘導 | 整粒歩合 59% → 70%以上 |
| | 南加賀産米のブランド力向上と水田高度利用<br>(H31～33) | 南加賀産米の品質・収量向上 | |
| | | ・浅植え、浅水管理による初期生育確保と早期中干しによる適正穂数確保の徹底 | １等米比率（主要３品種）<br>93.3% → 90%以上 |
| | | 麦類・大豆の生産性向上 | |
| | | ・低単収生産者に対する個別重点指導による単収向上 | 大麦単収 264kg/10a → 400kg/10a |
| | | ・実証圃設置等による基本技術（排水対策等）実施の徹底 | 大豆単収 147kg/10a → 300kg/10a |
| | | ひゃくまん穀の高品質・安定生産（再掲） | |
| | 主要共販品目の拡大と地産地消の推進<br>(H31～33) | 水田園芸品目の生産性向上 | |
| | | ・ブロッコリー 園芸複合化の推進(再掲)と根こぶ病対策の徹底による生産量拡大 | 単収 409kg/10a→500kg/10a<br>根こぶ病対策実施率 68.6% → 100% |
| | | ・かぼちゃ 園芸複合化の推進(再掲)と排水対策の徹底による生産量拡大 | 単収 391kg/10a → 600kg/10a<br>排水対策実施率 60% → 100% |
| | | ・たまねぎ 園芸複合化の推進(再掲)と排水対策の徹底による生産量拡大 | 排水対策実施経営対数（対象13経営体）<br>8経営体→13経営体 |
| | | 主要産地の活性化支援 | |
| | | ・トマト 産地圃場マップ等による担い手の将来像整理と担い手育成計画作成による生産量拡大 | 担い手育成計画作成数 0 → 1件<br>産地圃場マップ作成数 0 → 1件 |
| | | ・な し 黒星病の防除対策による安定生産への誘導と新規栽培者の育成 | 出荷量 891t → 1,000t |
| 地域の強みを生かした里山の生業づくりと魅力発信 | 地域ぐるみでの里山や農村の活性化<br>(H31～33) | 地域特産品の生産振興と中山間地域の活性化支援 | 単収：530→700kg/10a |
| | | ・国造ゆず 生産性の向上・安定化と付加価値を活かした生産活動支援 | いしかわＧＡＰ取得数 0→1件 |
| 次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の改善 | 産地の維持・発展に向けた生産体系の見直し<br>(H31～33) | 他産業との連携による収益性向上 | 実証圃単収 |
| | | ・ICT機器と自然エネルギーを活用した生産技術向上支援(トマト) | 長期長段どり作型 18t/10a→25t/10a<br>抑制作型 7ｔ/10a→8ｔ/10a |
| | | 生産効率改善に向けた現場改善手法の導入支援（再掲） | |

□ は重点課題

□ は一般課題